

平成30年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

甲斐市立玉幡小学校

■この調査は・・・

義務教育の機会均等とその水準の向上のために、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析して教育施策の改善を図るとともに、一人ひとりの児童生徒の学習の課題を把握して指導改善につなげるために実施しました。本校の子どもたちの課題について共通理解を図り、学校・家庭・地域が一体となって学力・学習状況の改善に取り組めるよう、結果の概要をお伝えします。

■調査の結果は・・・

対象が小6と中3、教科も国語／算数・数学／理科に限られています。したがってここに示す結果は児童生徒の「学力の特定の一部」であることをご理解ください。（理科は、3年に1度の調査となります。）

1 調査結果について

■学力調査結果からみえる本校の子どもたちの姿

- ・国語、算数ともに『知識』に関するA問題の方が、『活用』に関するB問題よりも高い正答率になっています。
- ・国語は5学年時の県学力把握調査の県平均との差と比べ4つの領域（話す／聞く・書く・読む／言語文化／特性）で大きな伸びを示しています。また、今回の平均正答率を全国と比較して、A問題でほぼ同程度、B問題でわずかに上回っています。特に、「目的に応じて複数の本や文章を選ぶ」「内容を押さえて自分の考えを明確にする」等の『読む』力を問う問題の正答率が向上しています。慣用句や漢字等の『言語についての知識や理解』も一定の定着が見られます。一方、構成の効果を考える、適切な敬語を使用する、中心を明確にして詳しく書く、意見を比較し考えをまとめる等の『書く』ことには課題が見られました。
- ・算数の正答率は、A問題でどの学習領域も全国と同程度もしくはわずかに上回り、平均的に基礎的な知識が定着しています。全国の傾向と同様に、『数量や図形についての知識・理解』はさらに力を入れる必要があります。B問題の正答率は、全国をやや下回りますが、「量と測定」や「図形」に関しての『数学的な考え方』は身に付いています。一方で「数量関係」に関する『数学的な考え方』を問われる問題に弱い傾向があります。
- ・理科の正答率は、全国とほぼ同程度で、『科学的な思考』を記述式で答えることは苦手ですが、『知識や観察／実験の技能』はよく定着しています。

■質問紙調査からみえる本校の子どもたちの姿

- ・「自分にはよいところがある」「先生によいところを認めてもらっている」と自己肯定感がしっかり育っている子どもの割合が多く、また、「決まりを守り」「将来の夢や希望を持っている」前向きな生活姿勢が見られます。
- ・「朝食をとる」「早寝早起き」「宿題をする」等、家庭での生活が規則正しく、家族で過ごす時間を大切にしています。家庭で「自分で計画を立てて勉強している」「予習・復習をしている」割合が全国平均より低く、「新聞を読んでいる」児童の割合は全国同様に低くなっています。

2 これからの取組について

■学校で取り組んでいくこと

- ・県教委が示す授業づくりの7つの視点『やまなしスタンダード』に基づいて、児童が見通しをもち、主体的に学習に取り組めるような授業を継続して目指します。また、「学びのサイクル改善事業」の思考力・記述力を求められる問題を5・6年生に実施し、達成度を踏まえ必要な対策を取り入れた授業を実施します。
- ・友達と話し合う活動を通して自分の考えを深めたり広げたりできる授業展開の工夫を図ります。
- ・学習内容の確実な理解と定着がなされるよう、学年や児童の実態に応じ複数教員によるT.Tや少人数指導を実施するとともに、デジタル教科書やタブレット・PC等、ICT機器の利活用を進め、わかる授業を目指します。

■家庭において取り組んでいただきたいこと

- ・お子さんの学校の様子について、家族で会話をする時間をとりましょう。
- ・学校から配布している「家庭学習の手引き」や家庭学習連絡ファイルを積極的に活用し、「1日の学習時間＝学年数×10分＋10分」を目標に、家庭学習に取り組めるようご配慮ください。
- ・「がんばるカード週間」などを利用して、日頃からお子さんの学習の様子に関心をもち、積極的に励ましの声をかけてあげてください。
- ・新聞やテレビのニュースを活用して、地域や社会へ関心が広がるよう、家庭で話題にしましょう。